



たかの高野山

丸山

昔このあたりにのろし場がありました

伊勢湾の眺望が素晴らしい!

しらいさん白猪山 (標高▲約820m)

展望台 一本杉

石尊大権現

不動滝

不動祠

登山道

白猪山の登山はココから

不動小屋

約2.2kmのほり約70分 くだり約50分

コナラ

栗の木峠

大石町 矢下へ

印の所で"特産松阪牛"が育てられています

特産 松阪牛

神路山

神路山 集会所

秋葉さん 御印

1幡神社

牛さん かわいい

キリン 板やなあ

ホテル

かくれ棚田で お米を作っています クレソンも育てとるよ

大日如味 唐戸岩

川ごうしん

大きな木の 柿

庚申さん

石垣から生える ビワ

コミュニティ 消防センター

防火水そう 風呂屋跡

宝泉寺

お茶畑

看板

ぬぎ林

ホテル

春日大明神

自転車 押すのも大変

神路山 あらぎ 道標

左右 かじやせ せきそん

ごしひろ 御所平

登山口 (▲約300m) P

石尊 じょうろう

大きな ススキ

登山口看板

石垣

茶畑

梅の木

夏明 生活 コミュニティ センター

看板

夏明

看板

看板

看板

看板

看板

看板

看板

竹じょうろうの 灯りが 美しい棚田まつりの 会場はこちら

だんだん田 公園

あづまや

どんぶりがいっぱい

愛宕神社

山の神

石尊 じょうろう

かわいい じょうろうが あるよ

昔の ざらし場跡

お茶の花

紙漉き 8
水切り 9
乾燥 10
仕上げ 11

煮る 4
水拭く 5
叩解 7

叩解 1
蒸して 2
皮はぎ 3

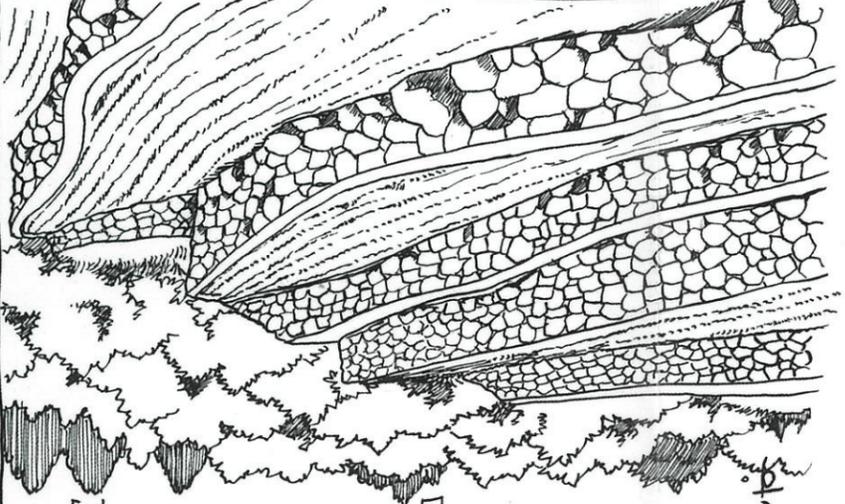
深野紙がてくてくお楽しみください

お茶の淹れ方
淹れ方
淹れ方

お茶の淹れ方
淹れ方
淹れ方

お茶の淹れ方
淹れ方
淹れ方

深野紙 伝統工芸品



石垣の歴史
石垣の歴史
石垣の歴史

お茶の淹れ方
淹れ方
淹れ方

酒夢感かち
酒夢感かち
酒夢感かち

酒夢感かち
酒夢感かち
酒夢感かち

発行 深野区
お問い合わせ
0598-32-2511

深野紙
FUKANO MAP

深野のすてきな人たさ
 いろんな方からお話をうかがいました
 一部ご紹介しします

長谷川さん どんな野菜も
 おいしい漬け物に
 ゴーヤは塩振って
 おいだらな、汁出るやろ
 それをかんに絞って
 酢につけるん。そこに同じ
 量の砂糖を入れるんやて。



田上さん 染め物が上手!
 くちなしあかね王ねぎ
 なじで染めます

白餅は山の神
 の料理でな
 日持ちもするんぞ
 よく作るんよ。

久保さん 80歳を超えた今
 も現役で牛を
 育てています

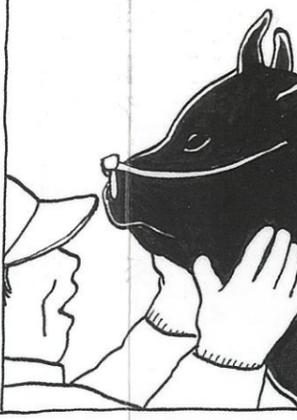
ぬくたい日には
 牛を外に出して
 ひなたぼっこさせる。
 牛と遊んじる
 みたいなんもんし。

野呂さん 深野紙の漉き
 技術を今に
 伝えます

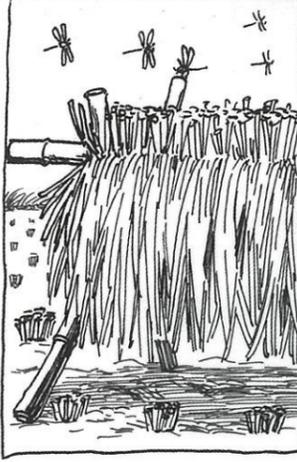
子どもたちに
 昔から栄えた
 というのを伝え
 後継者が出て
 きたらいいなと
 思っています。

深野で育つ 松阪牛

「松阪牛のふるさと」深野地区。昭和三十年頃までは農耕用の役牛としてどの家でも牛が飼われており、その後肉牛としての育成が盛んになりました。最盛期には約四十戸の牛肥育農家がいたそうです。が後継者不足のため現在では四軒まで減少しています。



少数の牛を家族の様に大事に育てるのがこの地域の育て方の特徴。牛たちもとても人懐っこいです。



餌に混ぜるワラは地元産。秋にははざかけをして天日で干している光景が見られます。ワラの品質や成分が肉質に大きな影響を与えるそうです。



深野は山からの湧き水が豊富。美味しい水を飲んで育った牛はお肉も美味しくなります。

★松阪牛と特産松阪牛「松阪牛肥育対象地域」で肥育された未経産の黒毛和牛というのが松阪牛の定義。「特産松阪牛」は、但馬地方で生まれた生後八〜十カ月の仔牛を九百日以上かけて育てあげた牛という条件があります。じっくりと時間をかけて育てること、肉がよりいっそう美味しくなるそうです。深野の牛の多くは「特産松阪牛」で伝統的な肥育方法で愛情を受け育てられています。

★松阪肉牛共進会 毎年その年一番の松阪牛のチャンピオンを決めるイベントです。優秀賞(一席)の牛には数千円価値が付くこともあります。



来迎寺

来迎寺には時代とともに各地を放ってきた古鐘があります。歴史的価値の高いこの鐘は昭和二十七年に県教育委員会の有形文化財指定を受けています。また境内には樹齢推定約三百年のオランダ紅ツギがあり三月末に花を咲かせます。四月初旬になると散った花びらがじゅうたんの様に幹の下面に広がりこちらも見ものです。



白猪山には昔、白い猪が住んでいて神の使いとして崇められたという言い伝えがあります。頂上近くには石尊大権現が祀られており、現在も四月に春の祭典が行われ、たくさんの人でにぎわいます。山の上での餅まきは県内でもたいへん珍しいものです。

伊勢本街道

深野にはかつて伊勢本街道が通り、伊勢参りの旅人や侍がたくさん訪れたそうです。柿野小学校の近くにある「接待場跡」は役人や旅人にお茶をふるまった場所といわれています。

笠汲橋

笠汲橋のむかしはなし。月のきれいな夕暮れ時、乳母に背負われ小さなお姫様が川を渡りました。長旅で疲れたお姫様は水面に映った月を見て「あの月を取って」とねだりました。乳母は持っていった笠に川の水を汲み、そこに月を映してお姫様を喜ばせました。ここから「笠汲」という名前が来ているとのこと。川の水があまりにも澄んでいたため、武士がかぶっていた笠ですくそ飲んだ、という説もあります。



蘭道

神路山から柚原町へと続く道が道標とともに今も山中に残っています。昔、深野にあった眼科医院に通うため一志方面の人たちが通ったことから「目医者みち」と呼ばれていました。明治時代には電報配達の人か山を越え、昭和三十年頃までは牛が通っていたそうです。

稲荷神社

春には桜、秋には紅葉を楽しむことができ、地域の人たちの憩いの場となっています。四月と十月の第一日曜には稲荷まつりも行われます。敷地内には深野偉人の石碑も建てられています。